

**中等学校における生徒指導・進路指導の意義と課題**  
—「生徒指導提要」・「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」を中心に—

**The significance and challenges of student guidance  
and career guidance in secondary schools**

—Focusing on the “Student Guidance Guidelines” and the “Guidelines for Career Education  
in Junior and Senior High Schools”—

井 上 美香子

福岡女学院大学 教職支援センター  
教育実践研究 第9号 抜刷

(2025年3月)

# 中等学校における生徒指導・進路指導の意義と課題 —「生徒指導提要」・「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」を中心に— The significance and challenges of student guidance and career guidance in secondary schools —Focusing on the “Student Guidance Guidelines” and the “Guidelines for Career Education in Junior and Senior High Schools”—

井 上 美香子

## 1. はじめに

キャリア教育について、学習指導要領では、生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること述べている。また、進路指導については「生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと」<sup>1</sup>とある。このことについて「生徒指導提要」では、「つまり、キャリア教育の中に進路指導が包含」<sup>2</sup>されていると説明している。

そして、「いじめや暴力行為などの生徒指導上の課題への対応においては、児童生徒の反省だけでは再発防止力は弱く、自他の人生への影響を考えると、自己の生き方を見つめること、自己の内面の変化を振り返ること及び将来の夢や進路目標を明確にすることが重要」と指摘し、「したがって、生徒指導とキャリア教育は、深い関係にある」<sup>3</sup>と位置付けている。

本研究では、「自己の生き方を見つめること、自己の内面の変化を振り返ること及び将来の夢や進路目標を明確にすること」という生徒指導とキャリア教育との接点に着目し、「生徒指導提要」（2022年改訂）・「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023年3月）をとおして、中等学校における生徒指導と進路指導をめぐる生徒指導・進路指導の意義と課題について、考察したい。

そこで、はじめに、「生徒指導提要」が2022（令和4）年12月に12年ぶりに改訂された背景を

<sup>1</sup> 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」2017年、99頁。

<sup>2</sup> 文部科学省「生徒指導提要」2022年、15頁。

<sup>3</sup> 前掲、16頁。

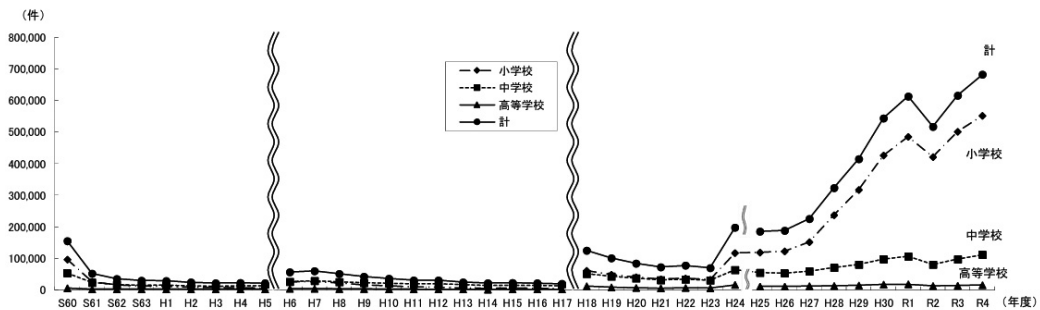
踏まえる。次に「生徒指導提要」における生徒指導の意義、「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023）におけるキャリア教育の意義を整理する。最後に、生徒指導とキャリア教育における進路指導の課題について検討したい。

## 2. 「生徒指導提要」改訂（2022）の背景

「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂された背景には、子ども達を取り巻く環境の変化を指摘することができる。この点については、「生徒指導提要」でも「はじめに」の部分で、「近年、子供たちを取り巻く環境が大きく変化中、いじめの重大事態や児童生徒の自殺者数の増加傾向が続いており、極めて憂慮すべき状況にあります。加えて、「いじめ防止対策推進法」や「義務教育の段階における普通教育に相当する機会の確保等に関する法律」の成立等関連法規や組織体制の在り方など、提要の作成時から生徒指導をめぐる状況は大きく変化してきています」と、説明している<sup>4</sup>。

それでは、このようないじめなどの問題がどの程度増加しているのだろうか。文部科学省の統計によると、いじめの認知件数のほか、不登校児童生徒数、児童生徒の自殺者数が増加していることがわかる（表1～3参照）。

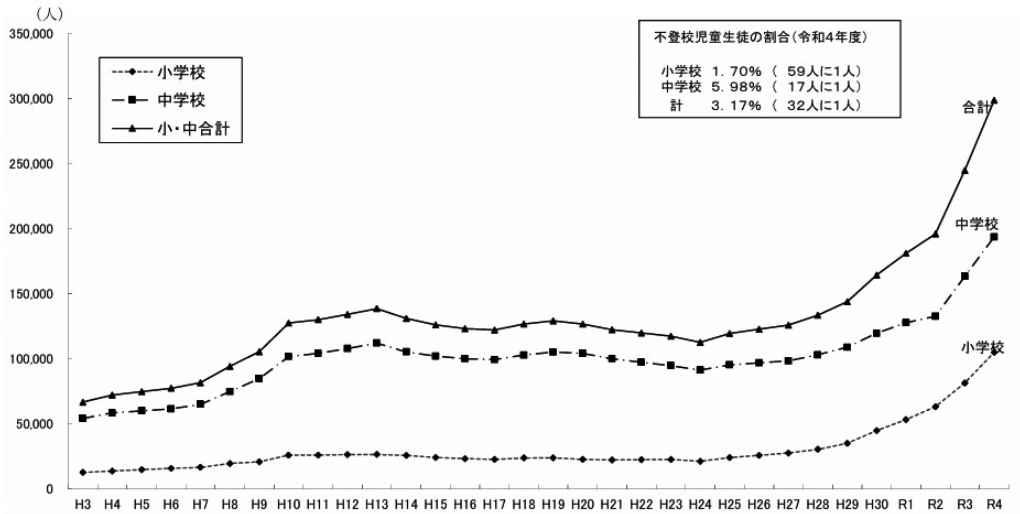
【表1】いじめの認知（発生）件数の推移のグラフ



（出典）文部科学省初等中等教育局児童生徒課「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」2019年、22頁より転載。

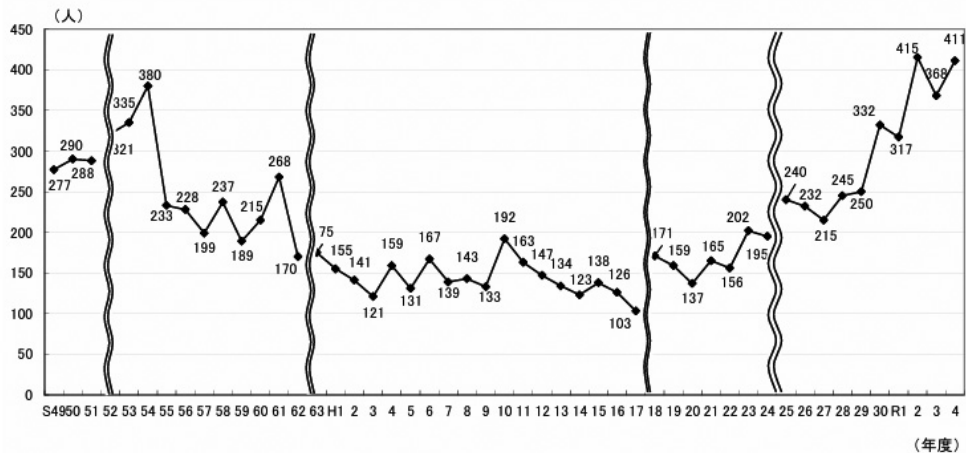
<sup>4</sup> 前掲「はじめに」の部分より。

【表2】不登校児童生徒数の推移のグラフ



(出典) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」2019年、70頁より転載。

【表3】児童生徒の自殺の状況推移グラフ



(出典) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」2019年、125頁より転載。

「『令和4年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査』をもとに分析した宮古紀宏氏も、「生徒指導提要」が改訂された2020年度は①「いじめ重大事態の件数」が923件、②「小・中学校における不登校児童生徒数」が299,048人、③「児童生徒の自殺者数」が411人と、①・②については過去最多、③については2020年度に次ぐ多さであると指摘している<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> 宮古紀宏「『新しい生徒指導』の基礎基本」『Web 月間生徒指導』2024年1月24日 <https://www.gakuji.co.jp/news/n104428.html> (最終検索日2025年2月17日)

そしてこれらの問題だけでなく、「事案発生後等の事後対応だけでなく、生徒指導上の諸課題を未然防止し、すべての子供たちが安心して学校に通えるように、多様な児童生徒の状況に対応した支援・指導体制の確立等が必要」<sup>6</sup>であったことも指摘している。

つまり、「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂された背景には、上記のようないじめや不登校、自殺などの子どもたちを取り巻く諸問題を未然に防止し、事案発生後には適切な事後対応を行うことを目指すとともに、「いじめ防止対策推進法」（2013年6月成立・同年9月施行）や「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（2016年12月成立・2017年2月施行）など、生徒指導に関する新たな関係法令が成立・急こうされたことでこれらの関係法令を踏まえた改訂が必要となったからであったことが背景の1つとして考えることができる。

### 3. 「生徒指導提要」における生徒指導の意義

生徒指導には、消極的な生徒指導と積極的な生徒指導があると指摘されてきた<sup>7</sup>。消極的な生徒指導とは、問題行動が起こったときにその対応や事後指導や相談などの生徒指導のことである。また、積極的な生徒指導とは、問題行動等を未然に防止するために予防として指導を行ったり相談にのったり、生徒の成長を促す生徒指導のことである。前者は治療的・対処療法的な性格を有するのに対し、後者は生徒の成長を促すという点で開発的かつ予防的な生徒指導であるといえる。2022年改訂の「生徒指導提要」では、生徒指導の定義を以下のように記している。

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う<sup>8</sup>。

また、生徒指導の目的については、以下のように記している。

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的としている<sup>9</sup>。

<sup>6</sup> 前掲。

<sup>7</sup> 松田素行「『生徒指導』の用例ならびに概念整理と今後の生徒指導の方向性【簡易版】」「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」（第2回）ヒアリング資料（資料2）（日本特別活動学会研究推進委員会プロジェクト研究C「社会研」WG（中村豊、佐々木正昭、須藤稔、松田素行）作成資料（[https://www.mext.go.jp/content/20210726\\_mxt\\_jidou01-000016962\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210726_mxt_jidou01-000016962_002.pdf) 最終検索日2025年2月17日）

<sup>8</sup> 文部科学省『生徒指導提要』2020、12頁。

つまり、生徒指導とは、子どもたちの一人一人がもつ可能性を伸ばし、社会的資質・能力の成長を支えるための指導や援助を行う教育活動であるといえる。この「子どもたちの一人一人がもつ可能性を伸ばし、社会的資質・能力の成長を支えるための指導や援助を行う教育活動」を行うためには、消極的生徒指導だけでなく積極的生徒指導を推進する必要がある。「子どもたちの一人一人がもつ可能性を伸ばし、社会的資質・能力の成長を支えるための指導や援助」を通した生徒指導により、生徒は自身を見守り支援する存在として教員を信頼し、安心して自身の可能性を発見する方法を模索したり、自己の成長を図るために試行錯誤したりすることができる。「生徒指導提要」（2022年改訂）からは、諸問題の対処や未然の防止だけでなく、まさに生徒一人一人の個性や資質に合った指導を適切に行うことで、生徒たちの成長を促していくことこそ、生徒指導の大きな意義であることを知ることができる。

#### 4. 「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023）におけるキャリア教育の意義

「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023）では、キャリア教育推進の背景を以下のように説明している。

近年、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行している。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結している。また、学校から職業への移行に問題を抱える若者が増え、社会問題となっている状況である。児童生徒に視点を移せば、自分の将来のために学習を行う意識が国際的にみて低く、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況がある。また、身体的には成熟傾向が早まっているにも関わらず精神的・社会的自立が遅れる傾向があることや、勤労観・職業観の未熟さなど、発達上の課題も指摘されている。このような問題を背景としつつ、今日、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すためのキャリア教育の推進・充実への期待が高まっている<sup>10</sup>。

ここから、キャリア教育の推進の背景には、「雇用形態の多様化・流動化」という職業に直関連する事柄だけではなく、「身体的」「精神的・社会的自立」や「発達上の課題」も含まれていることがわかる。

さらに、中学校の学習指導要領では「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しな

<sup>9</sup> 前掲、13頁。

<sup>10</sup> 文部科学省『中学校・高等学校キャリア教育の手引き—中学校・高等学校学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠—』2023年、6頁。

がら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと」とある<sup>11</sup>。加えて、高等学校の学習指導要領では「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと」<sup>12</sup>と説明されている。以上からキャリア教育とは、自分らしい生き方の実現を図るための能力や態度を進路指導を通して育てることであるといえ、ここにキャリア教育の教育的意義があるといえる。

## 5. おわりに—生徒指導とキャリア教育における進路指導の課題

最後に、生徒指導とキャリア教育における進路指導の課題について検討したい。「生徒指導は、学校の教育目標を達成するために重要な機能の1つであり、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである」<sup>13</sup>。生徒一人一人に対する理解を深め、生徒を多面的・総合的に理解していくことが必要となってくる。

また、そのためには、生徒一人一人が自身の課題や自己理解を深めることができる環境も必要になってくる。その環境づくりとして、学校は家庭や地域社会との連携のもとに、「チームとしての学校」をどの程度構築できるかが、大きな課題であるといえよう。これは、キャリア教育の進路指導においても指摘できることであると思われる。

生徒指導とキャリア教育における進路指導のこうした課題を乗り越えるために、各自治体や学校ではどのような取り組みがなされているのだろうか。今後、事例研究をとおして考察を深めたいと考える。

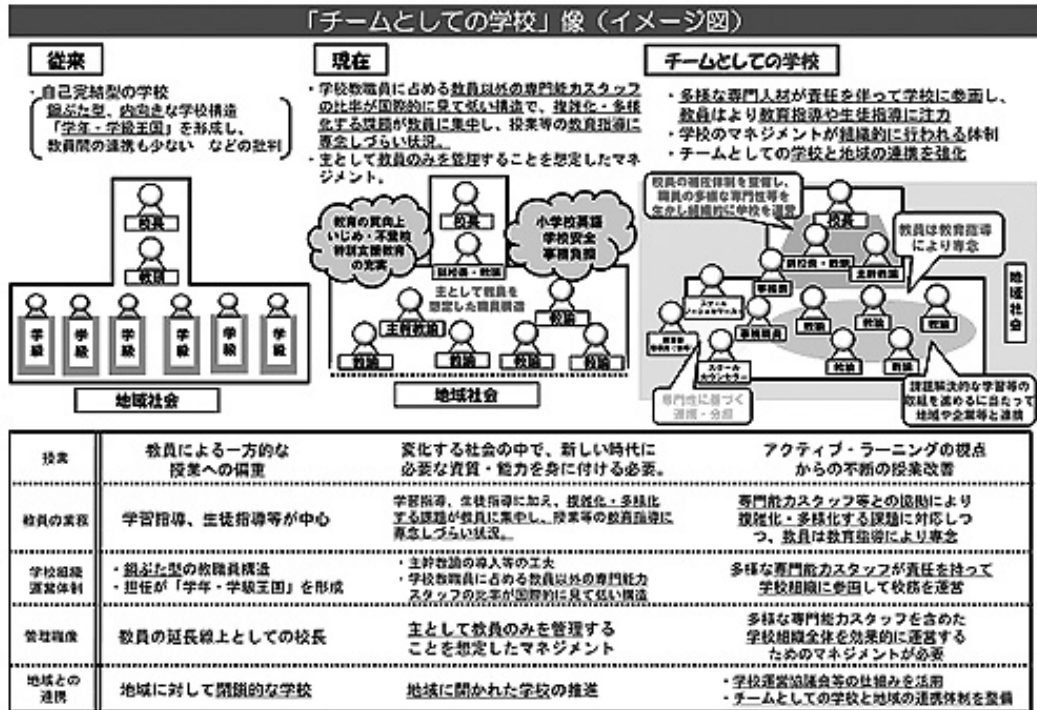
<sup>11</sup> 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』2017年、99頁。

<sup>12</sup> 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』2018年、30頁。

<sup>13</sup> 文部科学省（2017）前掲、97-98頁。文部科学省（2018）前掲、152頁。



【図】チームとしての学校像（イメージ図）

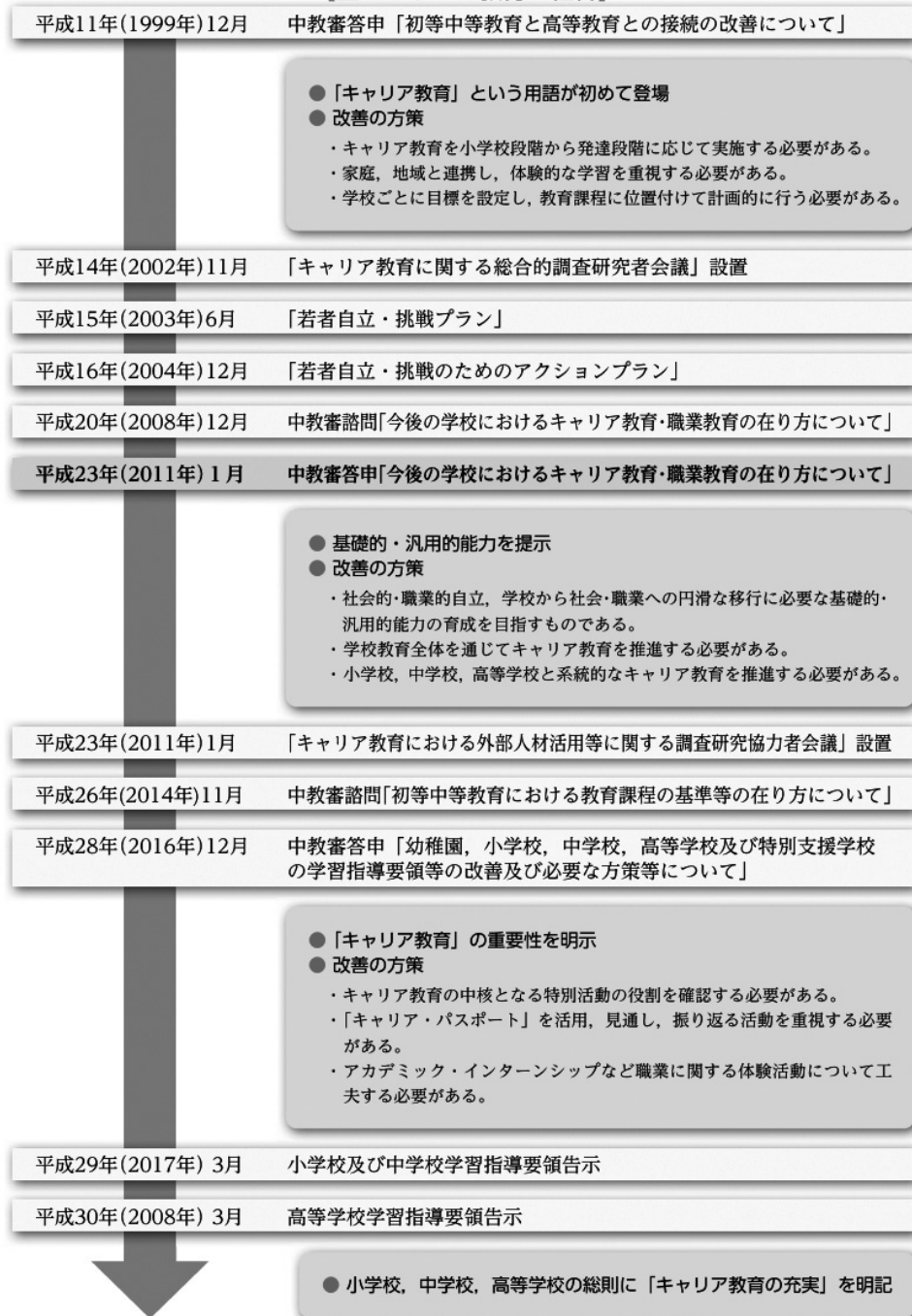


（出典）初等中等教育分科会（第102回）配布資料 資料2-2「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（答申（素案））より転載（[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1365408.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1365408.htm)、最終検索日2025年2月17日）



【参考資料】

【主なキャリア教育の経緯】



(出典) 文部科学省『中学校・高等学校キャリア教育の手引き—中学校・高等学校学習指導要領(平成29年・30年告示)準拠—』2023年、35頁より転載。

【主な報告書・手引書・パンフレット等】

平成16年(2004年)1月	報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」
平成17年(2005年)11月	「中学校 職場体験ガイド」
平成18年(2006年)11月	「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き」
平成18年(2006年)11月	「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書」
平成19年(2007年)3月	「職場体験・インターンシップに関する調査研究報告書」
平成20年(2008年)3月	「キャリア教育体験活動事例集(第1分冊)―家庭や地域との連携・協力―」
平成21年(2009年)3月	「自分に気付き、未来を築くキャリア教育―小学校におけるキャリア教育推進のために―」
平成21年(2009年)3月	「キャリア教育体験活動事例集(第2分冊)―家庭や地域との連携・協力―」
平成21年(2009年)11月	「キャリア教育って結局何なんだ?」―中学校におけるキャリア教育推進のために―
平成22年(2010年)1月	「小学校キャリア教育の手引き」
平成22年(2010年)2月	「キャリア教育は生徒に何ができるだろう」―高等学校におけるキャリア教育推進のために―
平成23年(2011年)2月	「キャリア教育の更なる充実のために」―期待される教育委員会の役割―
平成23年(2011年)3月	「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」
平成23年(2011年)5月	「中学校キャリア教育の手引き」
平成23年(2011年)11月	「高等学校キャリア教育の手引き」
平成23年(2011年)11月	「キャリア教育を創る」―学校の特徴を生かして実践するキャリア教育―
平成23年(2011年)12月	「学校が社会と協働して一日も早くすべての児童生徒に充実したキャリア教育を行うために」
平成24年(2012年)8月	「キャリア教育をデザインする」―小・中・高等学校における年間指導計画作成のために―
平成25年(2013年)3月	報告書「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査(第一次)」
平成25年(2013年)10月	報告書「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査(第二次)」
平成26年(2014年)3月	「キャリア教育が促す『学習意欲』」

平成27年(2015年)3月	「子供たちの『見取り』と教育活動の『点検』」ーキャリア教育を一步進める評価ー
平成27年(2015年)3月	報告書「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する調査研究」
平成28年(2016年)3月	「語る, 語らせる, 語り合わせるで変える! キャリア教育」
平成28年(2016年)8月	「変わる! キャリア教育ー小・中・高等学校までの一貫した推進のためにー」
平成29年(2017年)3月	「高校生の頃にしてほしかったキャリア教育って何?」
平成30年(2018年)3月	「生徒が直面する将来のリスクに対して学校にできることって何だろう?」
平成30年(2018年)5月	「キャリア・パスポートって何だろう?」
平成30年(2018年)5月	「キャリア・パスポートで小・中・高をつなぐ」
平成30年(2018年)5月	「キャリア・パスポートで日々の授業をつなぐ」
平成30年(2018年)11月	「キャリア・パスポートで『児童生徒理解』につなぐ」
平成31年(2019年)3月	「キャリア・パスポートを『自己理解』につなぐ」
平成31年(2019年)3月	「『キャリア・パスポート』例示資料等について」
令和2年(2020年)3月	報告書「キャリア教育に関する総合的研究(第一次)」
令和2年(2020年)4月	「『キャリア・パスポート』Q&A(随時更新)」
令和3年(2021年)7月	「キャリア・パスポートでキャリア教育と特別活動をつなぐ」
令和3年(2021年)10月	報告書「キャリア教育に関する総合的研究(第二次)」
令和4年(2022年)3月	「キャリア・パスポートを『ホームルーム経営』につなぐ」
令和4年(2022年)3月	「小学校キャリア教育の手引きー小学校学習指導要領(平成29年告示)準拠ー」
令和4年(2022年)3月	「キャリア・パスポートを『小小連携』『保幼小中高連携』につなぐ」
令和4年(2022年)5月	「キャリア・パスポートを『キャリア・カウンセリング』につなぐ」
令和4年(2022年)9月	「キャリア・パスポートを『自分のよさや可能性の認識』につなぐ」
令和5年(2023年)3月	「学びをつなぐ『キャリア・パスポート』」

(出典) 文部科学省『中学校・高等学校キャリア教育の手引きー中学校・高等学校学習指導要領(平成29年・30年告示)準拠ー』2023年、36-37頁より転載。